

令和3年度 第1回 岐阜県教育委員会教員育成協議会 議事概要

1 開催日時・場所

令和3年7月26日(月) 15:00~16:30

岐阜県総合教育センター 第1棟3階 133研修室

2 協議事項 「特別支援教育」「ICT活用指導力」の策定について

【主な意見】

策定や位置付け方について

- 岐阜県の育成指標の特徴は、指標の下部に「教員が成長し続けるために大切な姿」をキャリアステージごとに示しているところである。この「成長し続けるための大切な姿」をインデックスとして、自分がどの位置にあるかということ判断し、成長し続けるための足掛かりにしてもらいたい。
- 位置付け方について、大項目として「ICT活用指導力」、その中の小項目として「ICT活用力」「ICT指導力」というように分けてもよいのでは。又は、一緒にするのであれば「ICT活用・指導力」にしてはどうか。
- 全体の並びとして、「学習指導」「特別支援教育」「生徒指導」「ICT活用指導力」「経営・分掌」にするのはどうか。つまり、生徒に関するものを上に、経営・分掌に関するものを下にまとめてはどうか。
- 「特別支援教育」「ICT活用指導力」のみで別途指標を策定するのではなく、事務局の提案のように、2つの観点全ての教員に必要な資質・能力として、今ある指標に位置付ける案でよい。
- 「特別支援教育」も「ICT活用指導力」も「学習指導」「生徒指導」「経営・分掌」のどれにも関わるので、「ICT活用指導力」を「学習指導」「特別支援教育」を「生徒指導」と一つのカテゴリーに盛り込むことは適当ではない。
- 文言と位置付け方については、検討の余地がある。

内容や文言等について

〈特別支援教育〉

- 「特別支援教育」は語尾が「教育」で、「ICT」は「力」となっている。すべてを並べてみた時に、「特別支援教育」という言葉には違和感がある。
- 育成指標は人事評価の観点を活用し策定したが、育成指標は人事評価とは区別して、教員が資質向上の目標になるものとして整理されている。その意味では「特別支援教育」という言葉が「資質」と捉えられるような表現にしてもよいのではないか。
- スタートラインから「個別の指導計画を活用」とあり、いきなり飛躍しているような感じがする。基礎形成期の中で「個別の教育支援計画や個別の指導計画を適切に作成する」のように「作る」ということを入れてほしい。
- 資質貢献期では、地域全体の特別支援教育についても見渡せるような力が必要だと考える。学校運営への積極的な参画だけではなく、地域や学校内外というところにも視野が広がってほしい。
- 新任の教員だと個に応じすぎて、全体を見ることができなくなることもある。基礎形成期にはユニバーサルデザインで考えた学級経営や、一人一人の児童理解ができることが

大切に、個を尊重しながらも全体を見る、授業改善に取り組むというような考え方が現実的かと思う。

○個の理解は大切であるが、「個別の指導計画を作る」となるとかなり高度になる。

〈ICT活用指導力について〉

- 「ICT活用指導力」は、対児童生徒へのICT活用と、校務の効率化や組織の中でICTをどう活用していくのかという2つに分かれるような感じを受ける。例えば、大項目として「ICT」を位置付け、さらに小項目で分けるという案や、それぞれのカテゴリーに対児童生徒と校務の効率化に関するような分掌に係るものとして分けて盛り込むような案もあるのかもしれない。
- 基礎形成期に「情報セキュリティの重要性を理解」とあるが、それはスタートラインで身に付けることになるのではないか。基礎形成期では、その対策を身に付けることが大切ではないか。
- 現場では、子供への指導と校務支援としてのICTという点で、どちらがどうと分けられない状態で動いている。そう思うと、育成指標でも分けていくことは難しいのではないか。学習指導の中で、校務支援としてICTを活用することもある。
- 「ICT活用指導力」は、50代の教員が、他の教員にICTに関する指導ができるかということ、それは難しい場合もあり、従来の経験値のある教員が若い教員を指導・助言するという構造と異なる現状があるので、少し違う表現ができるとうい。
- 「ICT活用指導力」については、資質充実期であっても新しい変化を面白いと感じ、これまで蓄積した経験・指導力を生かして、変化に対応しようとする力が大切な資質である。
- 育成指標なので、個から全体を見ていくという感じで横軸が広がっていると思うので、その観点で文言も見直していくとうい。
- この案では、キャリアステージが上がるにつれて、ICT機器の活用が高度になっているイメージがあるが、視点を変えて、教師としてのICTデジタル社会に生きる考え方の向上とか、経験と共に高まっていくもののような表現にしていこういのではないか。
- 資質貢献期は、学校の中で「特別支援教育」「ICT活用指導力」についてのどういう力を発揮するか、そのためにどういう文言にするとよいかという点で考えていこうい。管理職との面談の時も振り返る参考になる。組織よりも個人の資質に焦点を当てて作成すると、研修を受けてみようかという意識になるのではないか。